平成18年11月28日

各　　位

会 社 名　関東電化工業株式会社
代表者名　代表取締役社長　冨田芳男
（コード番号 4047　東証第 1 部）
問合せ先　人事総務部専任部長　浦本邦彦
（TEL．　03 － 3216－ 4561 ）

平成19年3月期中間決算説明会資料の件

当社では、本日11月28日、アナリスト向けに平成19年3月期中間決算説明会を開催いたします。
平成19年3月期中間決算の概要、今後の業績見通しについて説明いたしますが、その資料を添付いたします。

以　上

平成19年3月期　中間決算説明会

関東電化工業株式会社
平成18年11月28日

説明内容

1．19/3中間決算の概要
2．業績の見通し・今後の動向

※増減率を除き、表示単位未満は切り捨てて表示

関東電化グループ（連結子会社）

（単位：百万円）

	資本金	出資比率 %	H18/9個別売上高	対前年度増減	内　　容
関電興産（株）	10	100.0	2，652	490	当社製品の一部販売および原材料の購入、保険代理店
（株）上備製作所	120	49．4	2，135	△68	化学工業用設備の製作および加工・修理
森下弁柄工業（株）	27	52．9	448	43	当社製品（鉄系製品）の一部製造・販売
関東電化KOREA（株）	2 億ウオン	90.0	2，797	528	当社フッ素系製品の一部販売
台湾関東電化股份有限公司	7 百万NTドル	100.0	621	302	当社フッ素系製品の一部販売
		合計	8，654	1，295	

事業の種類別セグメント

名　　称		内　　容
基礎化学品事業	無機製品	か性ソーダ、塩酸、次亜塩素酸ソーダ、塩化アルミニウム等
	有機製品	トリクロールエチレン、パークロールエチレン、塩化ビニリデン、シクロヘキサノン、シクロヘキサン、シクロヘキシルアミン、ジシクロヘキシルアミン等
精密化学品事業	鉄系製品	キャリヤー、マグネタイト、顔料等
	フッ素系製品	六フッ化硫黄、四フッ化炭素、三フッ化メタン、六フッ化エタン、三フッ化窒素、ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエン、八フッ化プロパン、六フッ化タングステン、四フッ化ケイ素、三フッ化塩素、八フッ化シクロブタン、五フッ化ヨウ素、六フッ化リン酸リチウム、フルオロエチレンカーボネート、排ガス処理装置（エフトール）等
その他事業		工場プラント建設、工場設備保全工事、保険代理店業務等

連結・個別損益の概要

（単位：億円）

連結決算				
	H17/9（倍率）	H18/9（倍率）	増減	増減率（%）
売上高	174（1.17）	195（1.15）	20	11.9
営業利益	9（1.60）	28（1.10）	18	199.1
経常利益	10（1.18）	27（1.07）	16	157.8
中間純利益	△21（－）	13（1.04）	34	－

個別決算			
H17/9	H18/9	増減	増減率（%）
149	170	21	14.2
5	25	19	334.2
8	25	16	184.5
△22	13	35	－

連結決算のポイント

（単位：億円）

	H17/9	H18/9	差額
売上高	174	195	20
経常利益	10	27	16
中間純利益	△21	13	34

（1）売上高増加（＋20億円）
・精密化学品事業部門は販売数量が価格低下を上回って増収（＋24億円）

（2）経常利益増加（＋16億円）
・基礎化学品事業部門の営業利益改善（＋5億円）
・精密化学品事業部門の営業利益増加（＋12億円）

（3）中間純利益大幅増加（＋34億円）
・経常利益の増加
・特別損失の大幅減少

個別決算のポイント

（単位：億円）

	H17/9	H18/9	差額
売上高	149	170	21
経常利益	8	25	16
中間純利益	△22	13	35

（1）売上高増加（＋21億円）
　・基礎化学品事業部門は販売数量の減少で減収（△4億円）
　・精密化学品事業部門は価格低下を上回る販売数量増加で増収（＋25億円）
（2）経常利益増加（＋16億円）
　・基礎化学品事業部門の営業利益改善（＋4億円）
　・精密化学品事業部門の営業利益増加（＋15億円）
（3）当期純利益増加（＋35億円）
　・経常利益の増加
　・特別損失の大幅減少
（4）配当：年間8円配当（中間配当4円、期末配当予定4円）

基礎化学品事業部門（個別）

（社内管理会計ベース）

（単位：億円）

	H17/9	H18/9	増減	数量差	単価差
売上高	51	46	△4	△7	3
営業利益	△8	△4	4	―	―

・原材料価格高騰分の価格ヘッジ等により製品価格の引上げをしたが、昨年8月の渋川工場ソーダ電解停止、採算重視の販売徹底で販売数量が減少したため減収。

・一方、営業利益は、製品価格の引上げと事業再構築の効果により、大きく改善。

精密化学品事業部門(個別)

(社内管理会計ベース)　　(単位:億円)

	H17／9	H18／9	増減	数量差	単価差
売上高	97	123	25	34	△9
営業利益	14	29	15	―	―

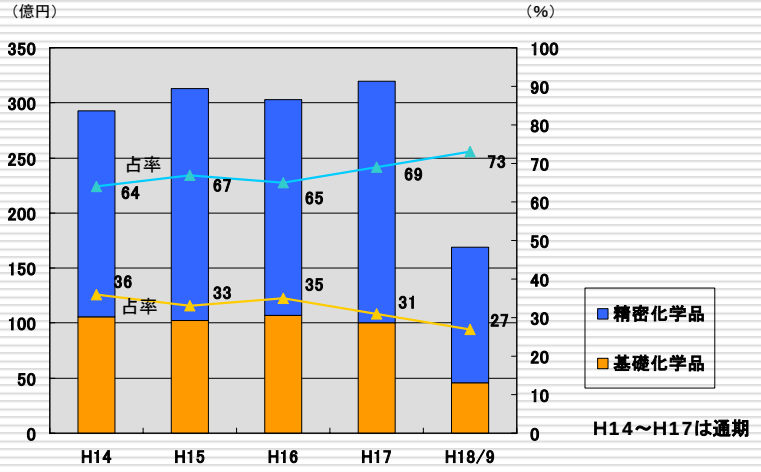
・三フッ化窒素、六フッ化タングステンを中心とした半導体・液晶用特殊ガス、電池材料ともに需要が拡大し、価格の低下を上回って販売数量が大幅に増加したことから増収増益。また、コストダウンも寄与。

主なフッ素系製品の販売量

(単位:t)

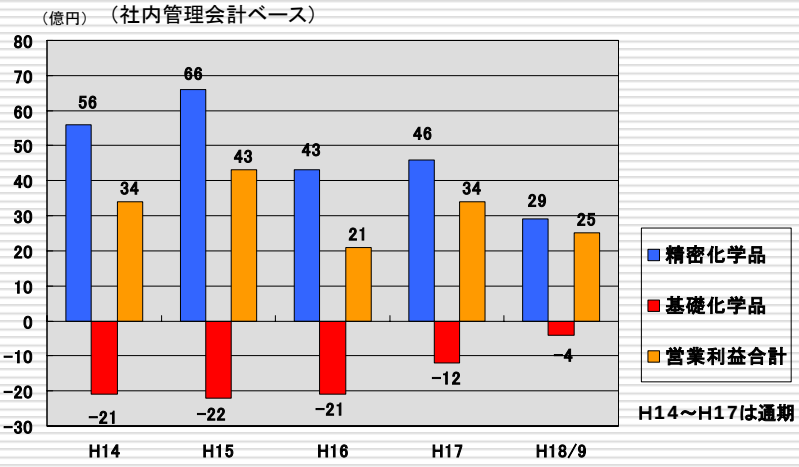
製品名	H17／9	H18／9	増減
三フッ化窒素(NF3)	374	542	167
六フッ化タングステン(WF6)	60	87	27
六フッ化硫黄(SF6)	493	581	87
四フッ化炭素(CF4)	262	357	94
六フッ化リン酸リチウム(LiPF6)	208	234	26

売上高推移(個別)



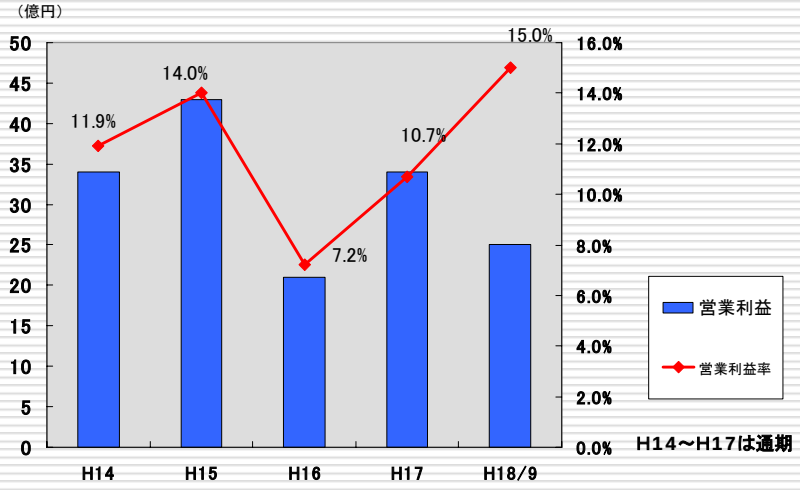
関東電化工業株式会社

部門別営業利益の推移(個別)



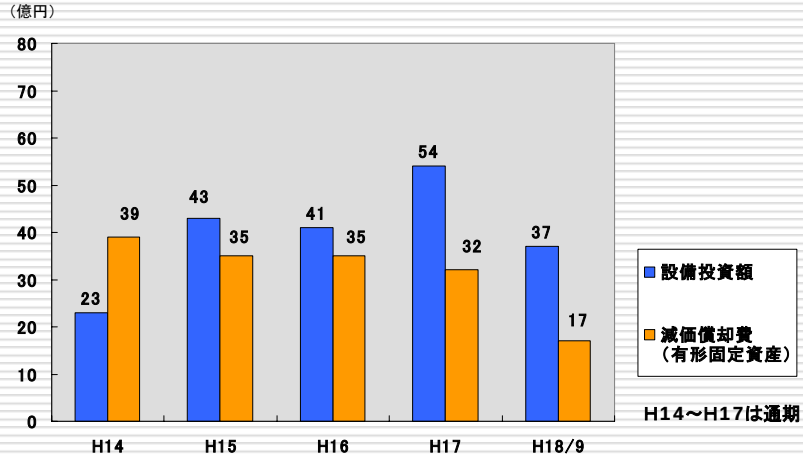
関東電化工業株式会社

営業利益と営業利益率の推移（個別）



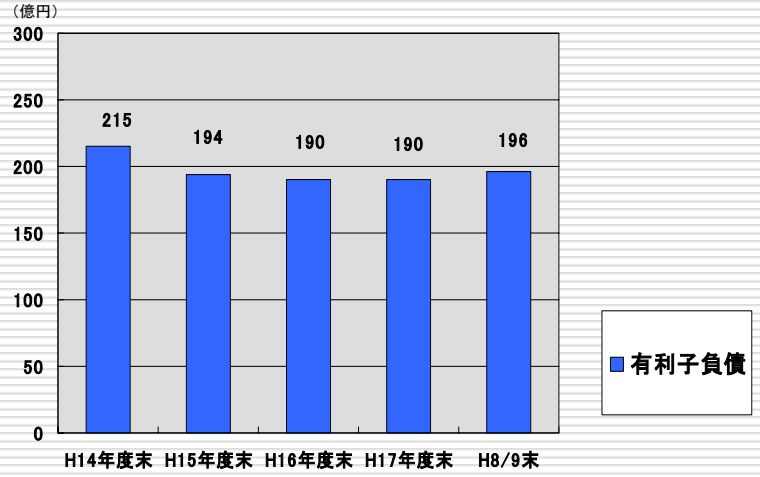
H14～H17は通期

設備投資・減価償却費の推移（個別）



H14～H17は通期

借入金の推移(個別)



説明内容

1．19/3中間決算の概要

2．業績の見通し・今後の動向

当社の強み

- 昭和45年**日本初**のフッ酸電解技術を確立して以来、ノウハウを蓄積し、現在、フッ酸電解技術・能力は世界トップクラス。
- 高純度フッ素ガスと原料の**直接反応**で製品を作るため、**不純物の少ない製品の製造が可能**。
- フッ素ガスを出発原料にして、多様な製品を独立した設備で製造することにより、**需要の変化に素早くフレキシブルに対応することが可能。**

当社のめざす企業像（ビジョン）

- フッ酸電解を中心としたフッ素関連を基軸に、企業規模は大きくなくとも、いくつかの製品で世界のトップを走る**「キラリと光る特色ある化学会社」**を目指している。
- 中期的には、
  ①基礎化学品事業部門の収益を改善し、
  ②既存のフッ素ガス製品で、ある程度の利益を確保しつつ、
  ③新規製品で利益を上積みしていく
  ということである。

セグメント別業績予想（連結）

（単位：億円）

	売上高			営業利益		
	H17	H18	差額	H17	H18	差額
基　礎	106	105	△1	△9	△3	6
精　密	235	275	39	50	61	10
その他	45	30	△15	※ 1	2	0
合　計	387	410	22	42	60	17

設備投資	57	72	14
減価償却	32	41	8
研究開発費	10	11	0

※その他には、連結調整を含みます。

基礎化学品事業

□ 今後の目標

平成18年度に黒字化の目処を立て、**次期中期経営計画のできるだけ早い時期**に黒字化する。

□ そのための方策

①付加価値の高い製品の製造・販売に注力
（フレークか性ソーダ設備が8月に完成し、生産能力23,000t/年へ）
②渋川工場シクロヘキシルアミン類撤退（H19年9月）
③固定費の削減

□ その他

基礎化学製品の価格修正

精密化学品事業

□ 半導体・液晶用特殊ガスの設備増強・拡販

① フッ酸電解能力増強（H18.6、H19.6）
② 三フッ化窒素設備増強
（H18.6 年1,000→1,200t、H19.9 →1,650t）
③ 六フッ化タングステン設備増強
（H18.9 年150→200t、H19.9 →300t）
④ 六フッ化硫黄設備増強
（H18.12 年1,150→1,500t、H19.9 →1,850t）

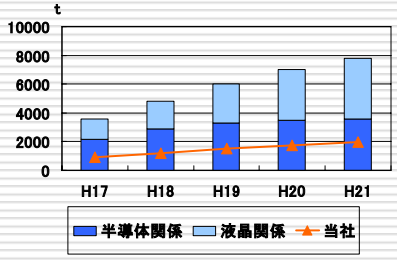
□ 電池材料の設備増強・拡販

①六フッ化リン酸リチウム設備増強（H19. 6 年550t→620t）
②フルオロエチレンカーボネート(FEC)製造設備（H18. 5）

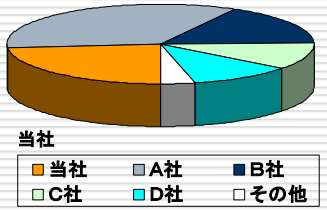
三フッ化窒素（NF3）

- 半導体・液晶製造装置のクリーニングガス。H18年度販売見込：約1,200t。
- 今後、半導体・液晶の生産量増加に伴い、三フッ化窒素の需要は確実に増加する。
- 需要増に対応するため、製造能力を、H18年6月に1,200tに拡大。さらに、H19年9月に、1,650tに拡大する予定。

【販売数量（H18以降は予想）】



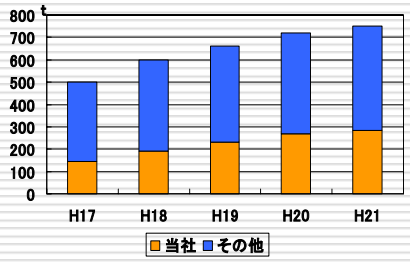
【現在のシェア予想】
当社シェアは約25%



六フッ化タングステン(WF6)

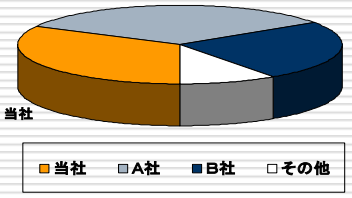
- 半導体用配線材料。H18年度販売見込:約190t。
- 今後、フラッシュメモリーの生産量増加に伴い、需要は確実に増加する。
- 需要増に対応するため、H18年9月に製造能力を200tに拡大。H19年9月に製造能力を300tに拡大する予定

【販売数量(H18以降は予想)】



【現在のシェア予想】

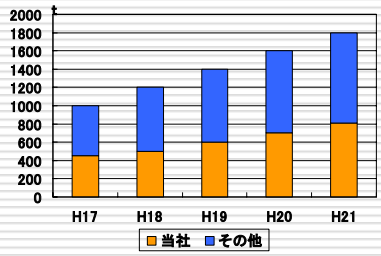
当社シェアは約3分の1



六フッ化リン酸リチウム(LiPF6)

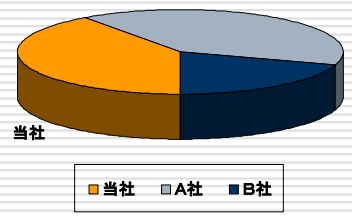
- リチウムイオン二次電池の電解液の材料。H18年度販売見込:約500t。
- 今後、携帯電話用電池等の増加に伴い、需要は拡大する。
- また、リチウムイオン二次電池は、車載用として注目されている。

【販売数量(H18以降は予想)】



【現在のシェア予想】

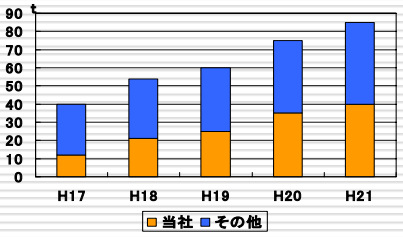
当社シェアは約40%



ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエン（C4F6）

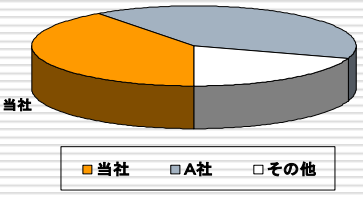
- 半導体酸化膜微細エッチング用ガス。H17年10月に上市。
- 特徴：高アスペクト比エッチングが可能。
  短い大気寿命。
- 300mmウエハー工場立ち上げに伴い、今後需要が拡大する見込み。
- 今後の需要に対応するため、H17年11月に製造能力を3倍に増強済。

【販売数量（H18以降は予想）】



【現在のシェア予想】

当社シェアは約30～40%



研究開発基本方針

ニーズを先取りした技術・製品の開発を行う
「開発型企業」の追求

①製造・営業・研究一体となった研究開発体制の構築

- **製造・研究のマネジメントを統合（生産技術部新設）**
- **部門を越えた人事交流**
- **研究員の拡充（目標100名体制）**

②新規製品の事業化のスピードアップ

- **事業性の適否の早期判定**
- **経営資源の重点投入**

期待する新規製品

1. 半導体材料ｶﾞｽ
　ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエン
　（C4F6）　（H17/10上市済）

2. 電池材料
　フルオロエチレンカーボネート
　（FEC）　（H17/10上市済）

3. 有機ファイン
　液晶材料　（H18/4上市済）
　農薬中間体　（同上）

H18年度新規製品
売上見込

約22億円